

農薬は正しく使用しましょう

福島県では、農薬を使用する機会が多くなる毎年6月から9月にかけて農薬危害防止運動を実施しています。この時期は、水稻や野菜などの害虫や病気が増えるので農薬を散布する際、適正に使用するとともにドリフトなどにも注意が必要です。

【ラベルの表示をしっかり確認しましょう】

- ①適用がない作物へは使用しないこと
(注意！ トマトに使えてもミニトマトには、使えない農薬があります)
- ②定められた使用量又は濃度を超えないこと
- ③定められた使用時期(収穫前日数等)を守ること
(注意！ 摘果した果実や間引菜を食用とした場合は、収穫とみなされます
例) 収穫時期の異なる「メロン」と「漬物用メロン」では、農薬の登録上の適用作物の区分が異なります)
- ④定められた成分ごとの総使用回数以内で使用すること
(注意！ 商品名が違っていても同じ成分の農薬があります)



【散布器具の洗浄はしっかり当日中に実施しましょう】

残留基準値超過原因の25%は、散布器具の洗浄不徹底によるものです。
(農林水産省消費・安全局調べ平成27年1月～令和2年3月末日)

【安全農業推進部指導・有機認証課 024-958-1708】

技術移転セミナー&ラウンド農ふくしまWebについて

研究成果で得られた技術を活用していただくため、技術移転セミナーを不定期で開催しています。開催内容等が決まりましたら、農業総合センターのホームページにてお知らせします。なお、希望がありましたら、各地域で開催することも出来ますので、お問い合わせください。



業務やイベントの紹介のほか、日常の出来事などをラウンド農ふくしまWebの中で発信しています。ぜひ一度ご覧ください。

【企画経営部企画技術科 024-958-1700】

掲載して欲しい記事、日頃知りたいと思っている技術などの希望がありましたら、企画技術科までお寄せください。御希望は電話、FAX、メール、郵送いずれの方法でも受け付けます。
(次回は令和3年11月発行)



(メール)

編集/発行：福島県農業総合センター
〒963-0531 郡山市日和田町高倉字下中道116番地
TEL 024-958-1700 FAX:024-958-1726
E-mail:nougyou.jouhou@pref.fukushima.lg.jp
https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200a



農業総合センターたより

第3号
(2021.6)



モモV字樹形での作業風景
(果樹研究所)

- ・ 研究紹介 P.2
-オリジナル花き品種誕生-
- ・ 技術情報 P.2
-クモヘリカメムシ発生地域拡大-
- ・ 研究紹介 P.3
-シュコンカスミソウの機械定植-
- 大豆のアレチウリ発生状況と対策-
- ・ お知らせ P.4

オリジナル花き品種誕生!

この度、リンドウとカラーの新たな県オリジナル品種が誕生しました。

リンドウは、「天の川」と命名され、青紫色の花弁に小さな斑点模様が入る9月咲きの品種です。鮮やかな花色なので、フラワーアレンジメントやブーケなど仏花以外の利用も期待できます。

また、気温が低くなっても花弁が閉じにくく、長く花が楽しめるのも大きな特徴です。



リンドウ 「天の川」



カラーのオリジナル品種誕生は本県では初めてで、特徴の異なる「はにかみ」、「ミルクームーン」、「キビタンイエロー」の3品種がデビューしました。

「はにかみ」は地色が白で仏炎苞（ぶつえんほう）※の縁に薄くピンク色が入ります。

「ミルクームーン」は地色がクリーム色で中心に「目」と呼ばれる模様があります。

「キビタンイエロー」は福島県復興シンボルキャラクター「キビタン」のように、鮮やかな黄色の仏炎苞を持つ大型の品種です。

(※仏炎苞とは、カラーの花びらのように見える部分で、葉が変形したものです)

リンドウ、カラーのいずれも、既存産地を中心に県内各地で栽培を推進していく予定です。



「はにかみ」



「ミルクームーン」



「キビタンイエロー」

【作物園芸部品種開発科 024-958-1721】

斑点米カメムシ類「クモヘリカメムシ」の発生地域拡大

クモヘリカメムシは、南方系の斑点米カメムシ類の一種です。県内では、これまで浜通り沿岸部と中通り南部で発生が確認されていました。昨年、これまで発生していなかった県北地方等で調査を行った結果、いくつかの水田で発生とその被害を確認しました（QRコード①から参考成果が確認できます）。

今後も温暖化が進行すると、さらなる発生地域の拡大が懸念されます。

クモヘリカメムシの成虫は、体長15~17mm、体型は細長く、体色は黄緑色のカメムシです。イネの穂を加害して斑点米被害が発生するほか、集中加害によって青立ちを引き起こすこともあります。

最新の斑点米カメムシ類の発生状況、防除対策については、病害虫防除所HP（QRコード②）を参考にしてください。

【生産環境部作物保護科 024-958-1716】



図 クモヘリカメムシの成虫



①参考成果



②防除所HP

シュッコンカスミソウは機械移植できます



成果詳細はこちら

シュッコンカスミソウは県内で約42ha栽培されています。

定植作業は、10a当たり約2,000株の苗を全て手作業で行うため、労働負担が大きく、花の収穫作業と競合する時期もあります。

そこで、(株)ヤンマーアグリジャパンの協力を得て機械による移植作業の技術実証を行いました。

汎用野菜移植機（PH1KWA（往復2条））をシュッコンカスミソウ仕様に設定することで、機械移植ができます（写真）。

本移植機では、セル成形苗及びφ60mmポット苗を使用します。

機械移植の場合、手植えに比べて移植作業時間が8割削減できます（図）。また、作業姿勢が改善し、労働負担も軽減されるため、実証者から高い評価を得ています。

省力化された労力を管理・収穫作業に振り替えることで、生産性や品質の向上が期待されます。

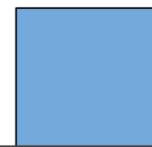
【会津地域研究所 0242-82-4417】



写真 機械移植作業の様子

往復2条、株間24~55cm、条間25~60cmの可変式

3時間30分



手植え(慣行)

35分

機械移植

図 1000株当たりの移植作業時間*の比較
ポット苗、作業人数2人、株間40cm
植え穴マーカー、マルチ穴開け作業を含む

注意! 大豆ほ場でアレチウリの発生が拡大しています



成果詳細はこちら

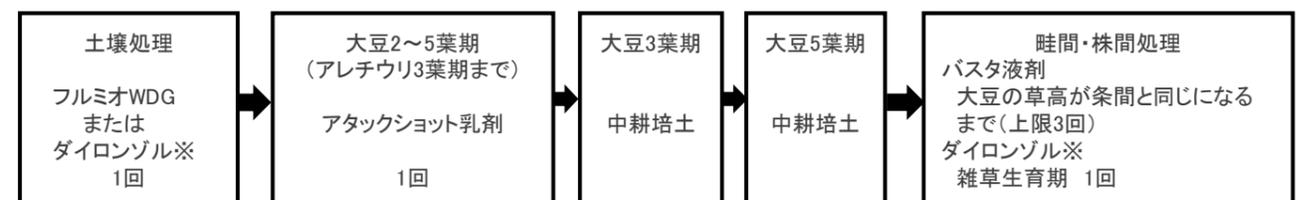
アレチウリはウリ科の難防除雑草で、芽生えはキュウリに似ています（図1）。

発生は4~9月と長期間にわたり、つる性で大豆に絡みつき、果皮には棘をもつため、蔓延すると防除が困難になります。県内各地で発生が見られ、蔓延により大豆の収穫が皆無となる事例や翌年の作付けを断念する事例が発生しています。センターでは、アタックショット乳剤が3葉期以前の処理で効果が高い除草剤であることを確認し、効果的な防除体系を明らかにしました（図2）。

翌年以降の発生を減らすためには土中の休眠種子を減らすことが重要です。枯れ残った個体は下部から新しいつるを伸ばしますので、以下の防除体系に加え、アレチウリが開花する8~9月までに手取り除草を行ってください。法面からも侵入しますので、ほ場周辺の防除も必要になります。



図1 アレチウリ発生ほ場とアレチウリの生育初期(赤枠)



*ダイロンゾルは土壌処理または畦間・株間処理のいずれか1回

図2 アレチウリの防除体系

【作物園芸部畑作科 024-958-1723】